

第4章 将来フレームの設定

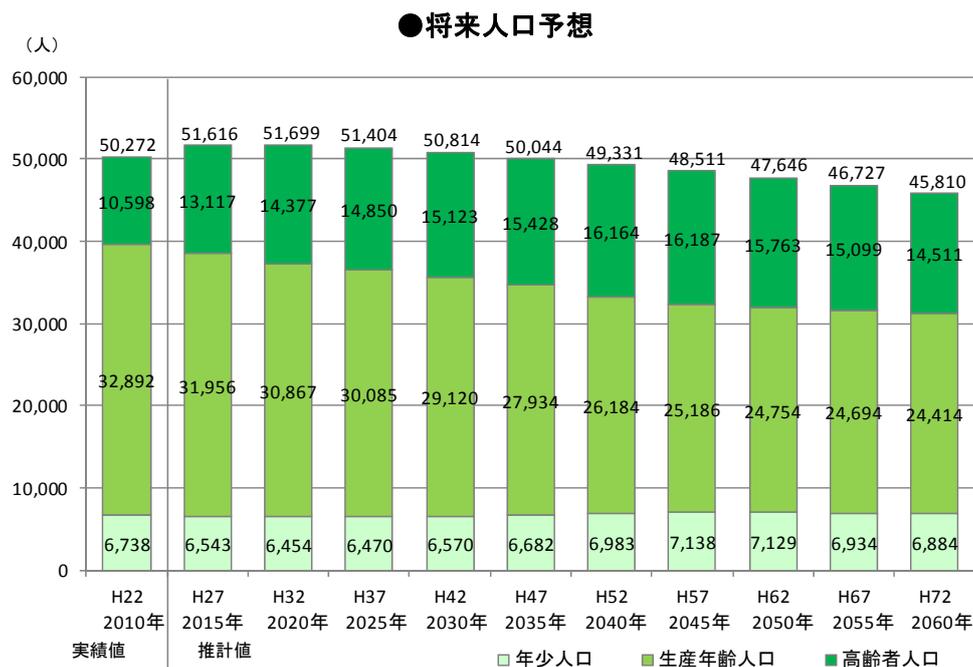
1 将来人口フレーム

(1) 将来人口フレームの考え方

将来人口フレームとは、目標年次である平成35年（2023年）の本市の総人口の推計であり、将来の目指すべき規模を示すものとなっています。本市においては、人口に関する計画として「白岡市人口ビジョン※」が位置づけられていることから、将来人口フレームは「白岡市人口ビジョン※」との整合を図るものとしします。

(2) 将来人口フレームの設定

将来人口フレームについては、「白岡市人口ビジョン※」において、平成 72 年（2060 年度）の目標人口を 46,000 人程度と設定しており、将来的にゆるやかに減少するものと推計されています。



資料：白岡市人口ビジョン※

「白岡市人口ビジョン※」の推計結果に基づき、本計画における将来人口は平成 35 年（2023 年）で約 51,000 人と設定します。

2 将来土地利用フレーム

(1) 将来土地利用フレームの考え方

将来土地利用フレームとは、目標年次である平成35年（2023年）の本市の住宅用地、工業用地、商業用地の規模の想定であり、本市の土地利用の方向性を示すものとなっています。ここでは、住宅用地、工業用地、商業用地について、将来における必要規模の考え方等を示します。

① 住宅用地

本市の人口は、「白岡市人口ビジョン※」の推計結果によると平成32年（2020年）をピークに減少に転じていますが、近年における本市の世帯数は微増傾向にあり、当面はこの傾向が続くものと予想されます。

住宅用地は、将来の土地利用の変化、建築物の動向、人口の流入出等を踏まえ、必要な都市基盤の整備を進めながら、適切な規模で効果的に配置していきます。

② 工業用地

白岡菖蒲インターチェンジ周辺では、その立地特性を活かした企業の誘致を図っていく必要があることから、良好な工業用地の確保が望まれます。

工業用地は、更なる産業の活力強化、雇用の場の創出等を踏まえ、周辺環境との調和を図りながら、適切な規模で効果的に配置していきます。

③ 商業用地

商業施設は地域経済の活性化や就業機会の創出につながります。住民から大型商業施設等の誘致の要望が多いことから、多様なサービス機能を持つ施設の誘致が望まれます。

商業用地は、本市全体の土地利用、交通体系を踏まえ、周辺環境に配慮しながら、適切な規模で効果的に配置していきます。